

2023年8月8日

関係各位

会社名：三井物産株式会社  
代表者名：代表取締役社長 堀 健一  
(コード番号：8031)  
本社所在地：東京都千代田区大手町  
一丁目2番1号

### エクアドル エビ養殖事業への出資参画

三井物産株式会社（本社：東京都千代田区、社長：堀 健一、以下「三井物産」）は、世界最大のエビ養殖事業者である Industrial Pesquera Santa Priscila（在エクアドル、以下「IPSP」）に、IPSP 創業者が保有する持株会社\*1（在シンガポール）を通じて出資参画することを現地時間8月7日に決定し、本日同持株会社および IPSP 創業者と関連諸契約を締結しました。取得対価は360百万米ドル（約500億円\*2）となり、本株式取得後に同持株会社は三井物産の持分法適用会社となります。必要な許認可取得など一定の先行要件の充足を経て、2024年3月期中の実行を予定しています。

世界の人口増加・経済成長とともに伸びるタンパク質需要に対し、エビは育成期間が短く飼料効率が良いことに加え、高タンパク質・低カロリーで健康志向に応える重要なタンパク質源です。三井物産は、IPSP 創業者とともに輸出向けエビ養殖の世界的な中心地であるエクアドルにおいて、オペレーションの最適化を通じて生産性向上と高い品質の追求および環境への配慮に重点を置き、顧客や社会のニーズに応えることで、同国最大手 IPSP の事業強化、ひいてはエビ産業の近代化をリードしていきます。

三井物産は、産業化と集約化が進行するエビ産業の成長性に着目し、2019年に世界最大のエビ加工事業者 Minh Phu Seafood 社（在ベトナム）に出資参画し、エビの加工・販売事業を強化しています。今般の IPSP への出資を通じ、より川上の種苗・飼料、養殖へとバリューチェーンを伸長し、エビ産業におけるグローバルトッププレーヤーを目指します。

三井物産は中期経営計画 2026 において、Wellness Ecosystem Creation を攻め筋の一つとして定め、健康に通じる食の提供により、多様化する消費者のライフスタイルの質向上への貢献を目指しています。本株式取得を通じ、食・ニュートリション領域での事業群の付加価値拡大に取り組み、「食」を通じた健康やウェルビーイングの向上を通じ、人々のより豊かで輝く人生の実現を目指します。

なお、本株式取得による 2024 年 3 月期連結業績への影響は軽微です。

## 1. IPSP 概要

会社名	Industrial Pesquera Santa Priscila
本店所在地	エクアドル グアヤキル
設立	1976 年
代表者	Santiago Salem, Founder & Executive Chairman
事業概要	エビの養殖・加工・販売、稚エビ・飼料の生産
売上高（単体）	約 1,400 百万米ドル(約 1,960 億円 <sup>*2</sup> ) / 2022 年 12 月期
従業員数	約 16,000 名
ウェブサイト	<a href="http://santa-priscila-admin.com">Santa Priscila (santa-priscila-admin.com)</a>

\*1 設立手続き中のため、概要は未定

\*2 1 米ドル 140 円で換算

本件に関する問合せ先：三井物産(株)

IR 部 TEL：03(3285)7657

広報部 TEL：080(5912)0321

### ご注意：

本発表資料には、将来に関する記述が含まれています。こうした記述は、現時点で当社が入手している情報を踏まえた仮定、予期及び見解に基づくものであり、既知及び未知のリスクや不確実性及びその他の要素を内包するものです。かかるリスク、不確実性及びその他の要素によって、当社の実際の業績、財政状況またはキャッシュ・フローが、こうした将来に関する記述とは大きく異なる可能性があります。こうしたリスク、不確実性その他の要素には、当社の最新の有価証券報告書、四半期報告書等の記載も含まれ、当社は、将来に関する記述のアップデートや修正を公表する義務を一切負うものではありません。また、本発表資料は、上記事実の発表を目的として作成されたものであり、日本国内外を問わず一切の投資勧誘またはそれに類する行為を目的として作成されたものではありません。

以上